

札幌市立澄川南小学校の取組【読書：図書館モデル公開授業】

1. 研究のねらい

読書に対して「楽しい」と感じている子どもが多いものの、手に取る本は、クイズの本や物語に偏っていた。そこで、次のような子どもの姿をねらい、学習を構成した。

- ① 普段、なかなか手に取ることのないジャンルの本への興味・関心を高める。
- ② 自分が興味をもったことについて、図書館の本を活用して調べる活動を通して、事典や図鑑、科学読み物の本などで調べることに慣れたり、自分の調べたいことに合わせた本の選定の仕方を学んだりできる。

学校図書館や寄託図書とは異なり、豊富な蔵書から自分にぴったりの本を選ぶことができるという中央図書館の環境を生かし、上記のねらいのもと、活動を行った。

2. 取組内容

(1) 事前学習

① 教材文を読み、調べたいことをまとめる

教科書に掲載されている教材文「里山は、未来の風景」を読み、自分がより詳しく知りたいことなど、感じることをノートに書き出した。

その後、学級全体で交流し、大まかなグループ分けを行った。調べたい事柄として、「棚田はどのようにつくられるのか」「水辺にいる生き物について」「今森光彦さんは他にどのような本を書いているのだろう」「木の間伐について」などが挙げられた。個々のテーマについては、調べるのが難しいと想定されるものもあったことから、一人につき二つのテーマを設定することとした。また、事前に中央図書館に個々のテーマを伝え、調べる時に役に立つ本をピックアップしておいていただいた。

② 図書館での学習の仕方を知る

札幌市の図書館のホームページに掲載されている「図書館しらべ学習手引書（小学生用）」を活用し、図書館でのマナーや本を見付けるときに役立つ請求記号や分類番号などについて事前に学習した。

(2) 中央図書館での活動

① 司書の方から、本の探し方、本の並び方などについて教えていただく

学校でも事前に学習して行ったが、図書館でも改めて司書の方からお話しいただいた。書棚の見本を基に、シールの色などによって、より見付けやすいように工夫していることを教えていただいたことで、次に行う、調べ学習に生かすことができた。

② 自分のテーマに沿って、本を選び、内容をまとめる

子どもたちが各々のテーマに基づいて本を選ぶ際には、司書の方に積極的に関わっていただいた。初め



て中央図書館を訪れた児童も多く（学年の6割）、まずは「自然の本」「農業の本」などの大まかな分類の棚を見付けることに苦戦していたが、教師も一緒に探すことで、分類の規則性に気付き、どの子も自分のテーマに応じた本を探すことができた。（学年の半数は自分の力で、残り半数は司書の方や教師と一緒に探すことができたと回答）本を選んだ子どもたちから、調べたことをワークシートに簡単にまとめていく活動を行った。学習中は何度でも本を交換して良いことにしたため、複数冊の本を活用して調べる姿が見られた。



(3) 事後学習

一人一冊、テーマに関連した本を借りてくることができた。その本を活用し、学校でも調べ学習の続きを行った。また、児童がまとめたものを、「里山は未来の風景 別冊版」として文集のような形で作成し、配付した。自分が興味をもち、調べたことを、友達に興味をもって読んでもらえることに、学びの手応えを感じていることが伺えた。



3. 成果と課題

(1) 成果

学習を終えて、児童のアンケート調査を実施したところ、今回の学習について9割の児童が「すごく満足」「満足」と回答した。肯定的な回答の理由としては、「調べたい本を借りることができたから」というような自分で本を選ぶことができたことに対する達成感や、「普段は物語ばかり借りていたけど、本で調べられることもできるんだなと思ったし、新しいことを知ることでもできたから。」というような読書の幅が広がったことに対する喜びなどが多かった。最初にも述べたが、豊富な蔵書があるからこそ、自分の調べたいことに合う本も見付けやすい。今回のように、予めテーマを決めて調べ学習を行う活動において、中央図書館は、大変価値のある活動場所であると考えている。

(2) 課題

今回の授業が「満足でない」と回答した児童の理由は、「自分の力で調べたい本を見付けることができなかった。」というものであった。予めテーマを設定する際に、活用できる事典や科学読み物を用意することができるかを吟味するとともに、図書館における活動の際は、大まかな分類を伝え、できる限り自分の力で見付けられるように支援を行う必要がある。また、事後のアンケートにおいて、「たくさん本があるから、自分で読みたい本も選んでみたかった。」という希望が多かった。1人2冊まで借りることができるため、「1冊は調べ学習に関連した本、もう1冊は自分で読みたいと思った本を借りる」ことにすることで、今回の環境をより生かすとともに、更に多くの本を探そう、借りようという意欲を高めることができると考える。